

2022 年度日本建築学会大会（北海道） 建築デザイン発表会発表梗概 応募要領

会場：北海道科学大学およびオンライン
期日：2022 年 9 月 5 日（月）～8 日（木）

第15回を迎える「建築デザイン発表会」は、2022年9月5日（月）から8日（木）まで2022年度大会（北海道）・北海道科学大学（札幌市手稲区前田）およびオンラインにて開催する予定です。開催方法の詳細については現在検討中ですので、最新情報や変更事項は、随時大会Webサイトにてご確認ください。

また2021年度大会より、各発表が貢献しうるSDGsの関連ゴールを発表申込時にご選択いただいております。ご了承のうえご応募ください。

発表申込み期間：2022年2月15日（火）～4月6日（水）16時59分（厳守）

投稿時に講演発表者の会員資格（会員番号）が必要となりますので、未入会の方は日数に余裕を持って入会手続きを行ってください。入会手続きが間に合わないと投稿できませんので、くれぐれもご注意ください。また、学術講演の締切日と異なるのでご注意ください。

2021年3月をもって論文予約会員制度が終了し、大会発表登録費の免除制度も廃止されました。したがって、従来の論文予約会員で講演発表者ならびに共同発表者は全員、発表登録費をお支払いいただく必要がありますのでご注意ください（詳細は [こちら](#) をご覧ください）。

この建築デザイン発表会は、会員が設計・計画した建築デザインを発表・議論する場を大会のなかに設けて設計系会員の学会活動への参画を促し、設計系の実務者、教員、大学院生等に建築デザインの評価の機会を提供するとともに、実務・大学院等における設計教育、ひいては設計の質の向上に資することを目的としています。

ここでいう建築デザインとは、設計の論理性、工学的・技術的裏付け、実現した効率性・経済性の根拠等が明確なデザインをいいます。発表にあたっては、以上の主旨がよく伝わるよう表現してください。

建築デザイン発表梗概を下記の要領で募集いたしますので、以下の事項に十分ご留意のうえご応募ください。

- 1) 講演発表は正会員（個人）・準会員・名誉会員に限りません。
ただし、講演発表者もしくは共同発表者に2021年度会費未納者、2007年度以降の大会発表登録費未納者がいる場合は応募できません。
- 2) 建築デザイン発表会および学術講演会において、それぞれ1題（計2題）の講演発表が可能です。応募規程「3. 発表者の権利・義務」「9. 発表登録費」をご覧ください。
- 3) 講演発表者ならびに共同発表者は、発表登録費（表-1参照）を納入しなければなりません（請求書を6月中旬ごろお送りします）。ただし、名誉会員は発表登録費を免除します。
- 4) 大会に参加する場合は、発表登録費とは別に大会参加費が必要になります。
- 5) 建築デザイン発表会は、公開の場で発表し議論されることを目的としていますので、必ず大会に参加し、講演発表を行ってください。欠席は発表とは認められません。
- 6) 代理の講演発表は一切認められていません。ただし、建築デザイン発表会、学術講演会の両方に投稿し、かつ相互の発表時間帯が重なった場合（半日単位）には、学術講演会の講演発表を行うこととし、当該の建築デザイン発表に限って共同発表者による代理の講演発表を認めます。
- 7) 締切後の原稿の訂正は一切認められていません。
- 8) 原稿執筆要領に示されている基準を大きく逸脱した原稿は不採択の対象となります。あらかじめ、応募規程「8. 建築デザイン発表梗概の採否」に記載の条項と照らしあわせて送信用の原稿をよく確認してください。とくに「原稿執筆要領」以外の環境で作成されたPDFファイルは、図・表・写真等が正しく表示されない場合があります。原稿送信後は必ず「梗概集原稿の確認」画面から確認してください。
- 9) テーマ部門では、各発表終了後に全体ディスカッションを行い、招待講評者が優秀発表を顕彰します。テーマ部門の発表者は、当該セッションの最後まで参加してください。
- 10) 本文の言語は、日本語のほか英語での投稿も受け付けます。英語専用の投稿サイトを設けますので、ふるってご応募ください。

電子投稿の大会コードは半角小文字で sapporo です。

応募規程

1. 対象

- a. 本会会員の設計・計画した建築デザイン（国外に立地するものを含む）とし、実施作品、計画案、大学、高等専門学校および専門学校の卒業設計、大学院の設計課題等を含む。
- b. 建築物の意匠設計ばかりではなく、構造、環境工学・設備、材料等の技術分野の設計、構工法・設計システム等にかかわる設計、まちづくり・景観・団地・広場などの都市・地域デザインや造園の設計、保存・修復・復元等の設計、インテリア・家具・ディテールのデザイン、その他建築にかかわる設計を幅広く含む。

2. 応募・発表資格 発表者（講演発表者および共同発表者）の資格は次による。なお、いずれも2021年度会費未納者、2007年度以降の大会発表登録費未納者は応募できない。

2.1 講演発表者（〇印）

次のいずれかの条件を備えた者とする。

- a. 正会員（個人）・準会員（発表登録費（表-1 参照）を期限までに納入すること）
- b. 本会名誉会員

2.2 共同発表者（連名者）

次のいずれかの条件を備えた者とする。

- a. 正会員（個人）・準会員（発表登録費（表-1 参照）を期限までに納入すること）
- b. 本会名誉会員
- c. 会員外（発表登録費（表-1 参照）を期限までに納入すること）

3. 発表者の権利・義務 発表者の権利・義務は次のとおりとする。

- a. 講演発表者（〇印）は、建築デザイン発表会に出席し、一名1題、または学術講演会1題と併せて計2題の講演発表を行うことができる。
- b. 講演発表者は必ず大会に参加し講演発表をしなければならぬ。共同発表者による代理の講演発表は認めない。
- c. ただし、建築デザイン発表会、学術講演会の両方に投稿し、かつ相互の発表時間帯が重なった場合^(注1)は、学術講演会の講演発表を行うこととし、当該の建築デザイン発表に限って代理の講演発表^(注2)を認める。学術講演については代理の講演発表は認めない。
(注1)「発表時間帯が重なった場合」とは、半日単位で発表時間が重なった場合を指す。
(注2)代理の講演発表は、正会員（個人）、準会員または名誉会員であり、当該建築デザイン発表の共同発表者に限って認める。該当する者がいない場合には、代理の講演発表を認めない。代理の講演発表は、一名1題を限度とする。
- d. 共同発表者（連名者）は、名を連ねる梗概の題数に制限はないが、講演発表を行うことはできない。
- e. 講演発表者の出席・欠席およびc項による代理の講演発表は学術推進委員会に報告され、記録として保存される。また、欠席およびc項による代理の講演発表の講演番号は本会 Web サイトにおいて公表される。

4. 応募方法 大会 Web サイトからの応募（電子投稿）に限る。大会 Web サイト上での発表申込および発表梗概原稿の送信をもって応募とする。なお、締切後の原稿の訂正は一切認めない。

5. 応募部門 応募部門は、テーマを定めない一般部門と、テーマおよび招待講師者をあらかじめ公表するテーマ部門のいずれかとし、建築デザイン発表申込画面の所定欄にて応募部門を選択する。

5.1 一般部門

一般部門は、テーマの制約を設けない部門で、プログラム編成会議で発表セッション分けを行う。また、各セッションには、原則として運営委員が参加する。

5.2 テーマ部門

テーマ部門のテーマおよび招待講師者は年度ごとに定める。2022年度のテーマ・招待講師者は、次ページの「テーマ部門のテーマ・招待講師者」による。テーマ部門は1テーマあたり最大20題程度とし、招待講師者がプログラム編成時に選ぶ。テーマ部門に選ばれなかったものは、一般部門で発表する。

6. 発表方法 発表方法等の詳細については、学術推進委員会から連絡する。

7. 応募期間

2022年2月15日（火）から4月6日（水）16時59分（厳守）

（学術講演の締切日と異なるので注意してください）

提出先：<https://www.ajj.or.jp/jpn/d-taikai2022/>

8. 建築デザイン発表梗概の採否 建築デザイン発表梗概の採否は、学術推進委員会が決定する。下記条項等に照らし大会建築デザイン発表梗概として不適当と認められるものは採択しない。不採択となった場合は5月20日までに本人に通知する。なお、提出された原稿は一切返却しない。

- a. 梗概に記載された内容が著しく不十分なもの。
- b. 内容が商業宣伝に偏したものの。
- c. その他、応募規程、執筆要領に反するもの。

9. 発表登録費 発表登録費は表-1による。ただし、留学生の会員は発表申込み時に申請があれば減額する。

表-1 発表登録費

	名誉会員	正会員・準会員	留学生	会員外
1) 学術講演会で講演発表する者*	0円	9,000円	2,000円	— (発表不可)
2) 建築デザイン発表会で講演発表する者*	0円	9,000円	2,000円	— (発表不可)
3) 学術講演会／建築デザイン発表会の両方で講演発表する者*	0円	13,500円	3,000円	— (発表不可)
4) 共同発表者（講演発表を行わない連名者）	0円	題数によらず 9,000円	題数によらず 2,000円	題数によらず 13,000円

*講演発表は、学術講演会、建築デザイン発表会で各1題まで発表可能（「3. 発表者の権利・義務」を参照）

a. 講演発表者ならびに共同発表者は、発表登録費（表-1 参照）を請求書に記載の期限までに納入すること（請求書は採否決定後に送付される）。ただし、名誉会員は免除する。

【注意】論文予約会員制度が終了し、大会発表登録費の免除制度も廃止された。したがって、従来の論文予約会員で講演発表者ならびに共同発表者は全員、発表登録費を支払う必要がある。

b. 共同発表の発表登録費は、題数によらず1題分とする。

c. 講演発表者（〇印）は発表者を代表して共同発表者の発表登録費の納入の義務を果たすものとし、全員の発表登録費の納入がない場合は、当該建築デザインの発表ができない。

d. 発表登録費未納者は、2023年度以降の学術講演会および建築デザイン発表会に応募できない。

10. 大会参加費 大会に参加する者は、前記「9. 発表登録費」とは別に大会参加費を納入するものとする。なお、講演発表者は大会に参加し講演発表をしなければならぬため、大会参加費は必須となる。

大会参加費および事前納入手続きについては本会 Web サイトおよび「建築雑誌」4月号に掲載する。

11. **梗概集** 採択された建築デザイン発表梗概はDVD 版大会梗概集（学術講演梗概と建築デザイン発表梗概を収録）に収録し、頒布する。なお、発表登録費納入者にはDVD 版大会梗概集を無償で送付する。

12. **著作権**

- a. 建築デザイン発表梗概の著作権は応募者に帰属するものとし、本会は編集出版権をもつ。
- b. 梗概の複写権、翻訳権は本会に委託するものとする。
- c. 著作権の侵害等の問題は応募者がすべての責任を負う。建築デザイン発表梗概集は電子形態によって公開されることを前提に、写真等については他者の著作権を侵害しないように十分注意する。

13. **電子形態による公開** 建築デザイン発表梗概集は、本会および本会が許諾した Web サイトから全ページが公開される。

14. **講評等**

- a. テーマ部門では招待講評者が2 題程度の建築デザインを顕彰する。
- b. 大会終了後に招待講評者の講評を本会 Web サイトに掲載する。

テーマ部門のテーマ・招待講評者

2022 年度のテーマ部門のテーマ・招待講評者は、下記のとおりである。

a. **公共建築を「みんなの場所」にする：**

小篠隆生（北海道大学准教授）

建築というプロジェクトを考えると、私たちの生活環境はどうあればよいのか、それに対して何を実現し、どこまで何に関わるべきなのかを問い直されています。これからの公共性を創出する「みんなの場所」のつくりかたを聞きたいと思います。

b. **脱炭素社会に向けた建築やまちのデザイン：**

高井啓明（竹中工務店設計本部プリンシパルエンジニア）

2050 年カーボンニュートラル宣言をした日本において、建築やまちが貢献できることは何かを共に考えたいと思います。ZEB/ZEH の先にあるもの、ライフサイクル、本当に豊かな生活とは、新築/ストック活用改修など、様々な視点からの実作例や提案を求めます。

c. **「新しい内外の連続」をもった建築：**

山梨知彦（日建設計チーフデザインオフィサー）

温暖な日本では、かつては縁側のように内外の直接的つながりが建築デザインの重要なテーマでした。しかし、カーボンニュートラルの実現が大きな社会課題となった今、高断熱高気密を満足し得る「新しい内外の連続」をもった建築をデザインすることが必要だと考えています。

d. **お宝探検：**

富永祥子（工学院大学教授）

設計では「今までにない新しさ」が求められがちですが、すでにあるものの中に「まだ気づかれていない価値」を見出すことが、新しい建築へと展開することもあります。埋もれているまちのお宝や脈を発掘し、これを使って未来につながる建築や都市の姿を提案してください。

e. **リユースできる建築構造デザイン：**

山田憲明（山田憲明構造設計事務所代表取締役）

環境負荷低減につながるような、構造体のリユースができるデザインを提案してください。リユースする意義、材料調達→建設→解体→再利用のストーリー、それを実現するための仕組みや工夫を含めて説明してください。実現性と独創性の高いデザインを求めます。

f. **「土地らしさ」を叶える建築：**

松田法子（京都府立大学准教授）

多くの建築は、何らかの土地の上に建っています。ところで、「土地らしさ」あるいは「土地」とはいったい何でしょうか。それらは、どんな広がりや深さをもった絡まり合いの中にあるのでしょうか。土地との関係を、

豊かに、かつ批評的に問う提案を募集します。

原稿執筆要領

建築デザイン発表梗概原稿は、大会 Web サイトの書式例を参照のうえ、原稿執筆要領にしたがって執筆してください。

1. **ファイル形式**

電子原稿は Adobe Reader で表示および印刷可能な PDF (Portable Document Format) ファイルで提出すること。

2. **ファイルサイズ（容量）の制限**

ファイルサイズは**3MB**以内とする。3MB を超えたファイルは受信しない。提出するファイルは一つとし、圧縮ツールによる圧縮やセキュリティ設定はしないこと。

3. **ファイル名について**

必ず拡張子 (.pdf) が付いているファイルとする。

4. **作成するアプリケーションと OS**

原稿を作成するアプリケーションの制限はない。OS は Windows 10 以上または macOS 10.15 以上を推奨する。

5. **PDF ファイルの作成方法**

PDF ファイルは、原則として Acrobat DC 以降（または同等品）を用いて作成すること。作成方法についてはソフトに付属のマニュアルまたは Web サイト上の執筆要領を確認すること。

Acrobat の詳細については <https://www.adobe.com/jp/> をご覧ください。

6. **用紙設定**

白地の A4 判 2 ページとする。ワープロソフト等で上マージン 15mm、下マージン 15mm、左右マージン 15mm、として設定する。なお、この基準から大きく逸脱した原稿は、執筆要領に反するものとして不採択となる場合がある。

7. **使用できるフォントの制限**

投稿された PDF ファイルは Windows または Mac 上で稼働する DVD に掲載されるため、原稿内に使用するフォントは以下に限定すること。

OS	Windows (10 以上)	macOS (10.15 以上)
日本語フォント	MS 明朝または MS ゴシック	MS 明朝、MS ゴシック、ヒラギノ
英字フォント	Arial, Century, Helvetica, Symbol, Times, Times New Roman	

※ どうしても他のフォントを利用したい場合は、PDF 作成時にフォントの埋込みを行ってください。

8. **記載方法**

下記の項目をレイアウト見本に準拠して記載する。レイアウト見本は Web サイト上で提供する。

a. **1 ページ目上段**

- ・表題、会員種別・発表者名（連名の場合は講演発表者を筆頭に記し、氏名の前に○印をつける）・所属を上段に記載する。ただし、本文が日本語の場合は、左段に日本語表記、右段に英語表記とする。本文が英語の場合は、左段に英語表記、右段に日本語表記とする。
- ・連名者で、設計統括責任者・指導教員等を明示する必要がある場合は、その者の氏名の前に※印をつけることができる。※印を付した場合は、その役割を註記する。

b. **2 ページ目上段**

- ・所在地（計画案の場合は適宜、とくに住宅等では建築主のプライバシーを考慮して表記する）、主な用途、敷地面積、建築面積、延床面積、キーワード、特記事項・データ等を上段に記載する。ただし、本文が日本語の場合は、左段に日本語表記、右段に英語表記とする。本文が英語の場合は、左段に英語表記、右段に日本語表記とする。

9. **設計趣旨・説明文**

設計趣旨 (600 字以上)・説明文は適当と思われる場所にレイアウトする。

設計趣旨・説明文の文字の大きさは8ポイントを原則とする。

10. 図・表・写真等

図・表・写真等は適当と思われる場所にレイアウトする。図・表・写真等は原稿に貼り付けた状態でPDF化し、別ファイルにはしない。発表者以外が撮影した写真等を使用する場合は、著作権所有者から許可を得るなど著作権に十分注意すること。

また、図・表・写真等の画像を含む場合、PDF化することにより、出力品質が劣化することがある。ファイルサイズ制限内で、PDF化する際のジョブオプションの値を高くして作成すること。

なお、原稿本文中に関連するサイトのQRコードを示すことは認めないが、参考文献中にサイト名とURLを記載することは構わない。

11. キーワード

発表申込画面に入力したものと同一キーワード3～6個を必ず記述する。用語は日本建築学会「学術用語集—建築学編」から選ぶことを基本とするが、適当な用語がない場合はこの限りではない。

12. 色使い

本文の文字は黒色とするが、図・表・写真等については色使いの制限はない。

13. 印刷の確認

作成したPDFファイルは一度プリンターで印刷し、執筆者の意図どおり印刷されることを確認すること。

14. その他

応募上の注意、発表申込み入力要領、電子投稿要領における手順は、学術講演会と共通です。

会員番号・大会用会員外登録番号の取得

2022年度大会で建築デザイン発表するために新たに入会される方は、**日数に余裕を持って応募時までに必ず入会手続きおよび入会金・会費の支払い手続きを済ませてください。**応募するためには講演発表者は会員番号、共同発表者は会員番号または大会用会員外登録番号が必要ですので、次の方法により取得してください。

入会ならびに会員番号の取得：本会 Web サイトで入会手続きを行ってください (<https://www.aij.or.jp/admission01.html>)。

入会金・会費の支払い手続きをされないと、入会手続きが完了しません。

①インターネット経由で入会手続きを行う場合は、**入会金・会費の支払い方法として口座振替 (Web 受付) を選択すると、Web 上の手続き完了後、会員番号を即時に取得できます。コンビニ (Web 受付) を選択すると、コンビニで入金後1～2時間程度で会員番号が発行されます。**なお、正式な入会は理事会承認後になります。

②郵送またはFAXで入会手続きを行う場合は、入会申込書が事務局に到着後、**会員番号の取得に10日間前後の時間がかりますので、できるだけインターネット経由でお申し込みください。**

大会用会員外登録番号の取得：本会 Web サイト

(<https://www.aij.or.jp/jpn/d-taikai2022/>) で取得してください。

●2021年度建築デザイン発表会 [テーマ部門] 顕彰者

【東日本震災10年の反省—自然に挑まない復興計画】招待講師：和田章

・14135 和田裕子 (文化継承建築設計事務所)・兼弘彰・金容範・榎井玲・益尾孝祐

・14143 両川厚輝 (東京大)・筒井伸・川崎光克

・14146 有馬佳恵 (武庫川女子大)・田川浩之・鈴木利友・米田浩二

【土木的建築】招待講師：栗生明

・14065 青木友里 (武庫川女子大)・岡崎甚幸・天島秀秋・山口彩

・14071 林恭平 (広島大)・福島岳大・中園哲也

・14074 雨宮知彦 (ラーバンデザインオフィス)・サカイ クラウディア・

岡部明子

【3日で作れるコミュニティハウス】招待講師：三宅理一

・14112 毛塚順次 (大成建設)

・14120 佐藤允哉 (滋賀県立大)・川上滝登・村橋碧空・陶器浩一

【コロナ以降の建築】招待講師：手塚由比

・14092 駒井貞治 (駒井貞治の事務所)

・14107 河野茉莉子 (早稲田大)・米澤実紗・吉村靖孝

【ポストコロナ時代の環境デザイン】招待講師：荻原廣高

・14162 花岡郁哉 (竹中工務店)・海野玄陽・堀田憲祐

・14168 原田尚侑 (日建設計)・井上瑞紀・内田橋花・關信怡・本田佳奈子

・14174 城所真緒 (神奈川大)・山家京子・上野正也

【「ひとり」と「みんな」のあいだ】招待講師：南後由和

・14189 谷寄音花 (明治大)・門脇耕三

・14191 三浦匠平 (リライト_D)・星光祐・古澤大輔

・14197 堤裕二 (大林組)・大西宏治・安藤新敏・佃和憲

●2022年度大会建築デザイン発表会運営委員会

委員長 陶器 浩一 (滋賀県立大学)

幹事 杉浦 久子 (昭和女子大学)

萩原 剛 (早稲田大学)

古谷 誠章 (早稲田大学)

委員 伊香賀俊治 (慶應義塾大学)

伊藤 恭行 (名古屋市立大学)

門脇 耕三 (明治大学)

小泉 雅生 (東京都立大学)

佐藤 淳 (佐藤卓構造設計事務所)

佐藤 光彦 (日本大学)

下吹越武人 (法政大学)

羽鳥 達也 (日建設計)

本杉 省三 (日本大学)